

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 3 月 5 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870600719
法人名	株式会社 ジェイコム
事業所名	グループホーム まなべ
所在地	西条市氷見乙769番地 (電話) 0897-57-6151
管理者	中原 千加子
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15
訪問調査日	平成 21 年 1 月 28 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 9 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 12 月 31 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 12 月 25 日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	17 人
常勤	13 人
非常勤	4 人
常勤換算	14.8 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	45,000	円	その他の経費（月額）	21,000	円	
敷金	有（ ）円		○ 無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ ）円 ○ 無		有りの場合 償却の有無			
食材料費	朝食		円	昼食		円
	夕食		円	おやつ		円
	または1日当たり		1,200	円		

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 12 月 31 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	8 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85.3 歳	最低 75 歳	最高 95 歳		

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地に建つホームである。ホームの近くには運営者の経営する医療機関や有料老人ホームがあり、市内には同法人の有する3つのホーム、デイサービス、特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護等があり、相互に連携を図りながら運営されており、合同の研修会等も開催されている。職員は、利用者の自立支援に力を入れ、一人ひとりの力量を大事にしながら、口腔体操、フットケア、リハビリテーション等を行い、ともに仲良く生活している。地域の祭りや文化祭、しめ縄づくりなどに参加したり、中学生の体験学習を受け入れたり、ホームの行事に

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目：外部4)

前回の評価を受けて、理念を目標化し、他ホームとの交流や相互訪問に努め、重度化や終末期の対応を家族等とさらに話し合い、食事の献立を法人の管理栄養士にチェックしてもらう等の改善に取り組んでいる。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)

運営者、管理者、職員は評価の意義を理解した上で、全職員が自己評価に取り組んでいる。職員は、自己評価が日々の支援のふりかえりになると感じている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6)

会議は2か月に1回開催され、ホームから行事、利用者の状況、外部評価、課題等を報告し、質問や意見を出してもらっている。また、地域の情報を得たり、健康管理や福祉の講話を行ったり、同系列の事業所見学をする等、柔軟に会議を運営している。会議で出された意見や把握した情報等はサービス向上に活かしている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7, 8)

家族等の意見や苦情は家族の来訪時、家族会、運営推進会議、意見箱等で把握し、運営に反映させている。相談苦情窓口は内部と外部に分けて文書に明記し、家族にも説明している。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)

地域の秋祭り、文化祭、しめ縄づくり等に参加したり、中学生の職場体験を受け入れたり、ホームの花見等の行事には自治会長や地元の方にも参加してもらう等、地域との交流に積極的に努めている。また、職員は地域の草刈り等に協力している。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホームまなべ

(ユニット名)

1階フロア

記入者(管理者)

氏 名

中原千加子

評価完了日

平成 20 年 12 月 25 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 入居者一人一人が自立した生活が営めるよう支援すること。一人一人が穏やかに生き生きとその人らしく暮らせるよう支援すること。地域の方々と交流を図り、地域社会に開かれた暮らしとなるよう努めること。などを理念として掲げている。		
			(外部評価) 同系列のホーム共通の、地域の中でその人らしく暮らすことを支えるという理念がある。この運営理念を、さらにユニットごとに具体化した月間目標として掲げ、支援に繋げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 玄関やリビングなど職員の目に触れるところに理念を貼っている。また、いつでも見られるよう、名札の裏にも記している。理念を具体化した目標を立て目標達成に向けて努力している。目標は職員が書き、リビングに掲示している。	※	今後も目標を立て実行し、理念の具体化に努めたい。
			(外部評価) 理念を具体化した月間目標をホーム内に掲げてユニット会で話し合うとともに、名札の裏に理念を印刷して常に確認する等、職員は理念の共有化を図っている。月間目標の「ゆったり、のんびり、おだやかに」を、利用者ごとの起床時間への対応、朝の足浴時の会話、口腔体操でのかかわり等で実践している。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議や家族会において、ホームは地域から孤立した存在でなく、地域の人々と共にあり、共に生きていく存在であることを話している。そうした理念は、日常生活の中で、利用者や職員が外へ出ていくことで、自然に地域の方々に理解していただけるものと思う。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩や買い物時は挨拶を交わしたり、立ち話をするなどしている。また突然雨が降ってきたときなど洗濯物を取り入れるよう知らせてくれたりする。庭の畑に苗を植えてくれたり、職員が野菜の育て方を教わるなど日常的なつきあいができている。	※	隣近所といい関係が続くよう利用者も職員も挨拶をきちんとしたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の祭りや文化祭、掃除などに参加している。小学生や老人クラブの方々と一緒に注連縄づくりに参加させてもらっている。また中学生とは職場体験学習ということで交流をもっている。	※	職員がゆとりをもって地域の行事に参加できるようしたい。
			(外部評価) 地域の秋祭り、文化祭、しめ縄づくり等に参加したり、中学生の職場体験を受け入れたり、ホームの花見等の行事に自治会や地元の方にも参加してもらおう等、地域との交流に努めている。また、職員は地域の草刈り等に協力している。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 利用者様のことが第一で、外へ向けての発信は未だ不十分である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 意義を充分理解し、全員が自己評価を行い、サービスの質を高めることができるよう努めている。また評価結果を全員で話し合い、できることから改善に努めている。		
			(外部評価) 運営者、管理者、職員はそれぞれの立場から評価の意義を理解した上で全職員が自己評価に取り組んでおり、日々のケアのふりかえりになったと感じている。前回の評価を受けて、理念を目標化したり、他ホームとの交流や相互訪問に努めるなど、改善に熱心に取り組んでいる。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、利用者様の様子や提供したサービスなどを報告している。その場で出された意見はミーティングで職員に報告し、課題解決に努力している。ホームの管理者や職員で解決できない場合は、上司に報告している。	※	運営推進会議の持ち方を考えたい。意見やアドバイスがより沢山出るように考えたい。
			(外部評価) 会議は2か月に1回開催され、ホームは行事、利用者の状況、外部評価、課題等を報告し、質問や意見を出してもらっている。また、地域の情報を得たり、健康管理や福祉の講話を行ったり、同系列の事業所を見学する等、柔軟な会議の運営を行っている。会議での意見や情報をサービス向上に活かしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 行政、介護相談員、事業所で構成されるサービス向上連絡会が行政により開催されている。その会で研修や意見交換を行いサービス向上に役立てている。		
			(外部評価) 市担当者、介護相談員とグループホームで構成されたサービス向上連絡会があり、この会での意見や研修内容をサービスの質の向上に活かしている。市担当者や地域包括支援センターとも日常的に行き来する機会があり、相談したり介護情報を得たりしている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在権利擁護に関する制度の利用が必要な方はいない。研修は一部の職員しか受けていない。新聞などで読んではあるが、管理者も含めて全ての職員が理解しているとは言えない。	※	今後、このような事業や制度の利用が必要な方が増えてくると思われるので学ぶ機会をつくりたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修やミーティングで虐待防止について話し合っている。何が虐待になるか職員間でお互いにケアを点検している。また、言葉の虐待をしないよう言葉がけについては常に話し合いの場を持つようにしている。	※	よりいっそうの意識の徹底を図りたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、充分時間を取り丁寧に説明をしている。運営理念やケアに対する考え方や取組み、利用料や重度化した場合の事など家族が不安に思われることなど説明し、同意を得るようにしている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 介護相談員の訪問が月に一度あり、利用者の意見や希望をくみ取ってくれている。また、職員は利用者の普段の生活の中から不満や苦情、してほしいことなどを見つけケアに活かしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 毎月1回、家族へ利用者の生活状況を日常生活報告書として送付している。金銭管理については家族がホームへ来られた折りに金銭出納帳を確認していただいている。		
			(外部評価) 利用者の暮らしぶりや健康状態は、日常生活報告書とホーム便り等で家族に毎月報告している。ホームで金銭を預かる場合は個別の金銭出納帳を作り、家族の来訪時に確認してもらっている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や家族会において意見や不満、苦情などを聞くようにしている。またホーム来所時個別に聞くようにしている。ケアに関しては気になるようなことは随時家族に連絡し意見を求めている。聞いたことは申し送りノートや朝、夕のミーティングで話し合い改善するよう努めている。	※	家族から本音を聞き出すのは難しい。困ったり迷ったりしたときはどのように対応すればよい家族にも相談をかけ、みんなで考えたい。
			(外部評価) 意見や苦情等は、来訪時や家族会、運営推進会議、意見箱等で把握し、ミーティングで話し合って運営に反映させているが、家族の本音や率直な意見が十分得られているとは言い難い。相談苦情窓口は内部と外部に分けて文書に明記し、家族にも説明している。	※	家族と職員が顔の見える関係の中で、率直な意見等を言い難い状況が考えられる。家族会などで職員が席をはずして家族同士で話し合う時間を設け、出された意見や苦情を家族代表から伝えてもらう等、家族の本音を聞きとれるような工夫を期待したい。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は毎月のユニット会や朝、夕の申し送り時に職員の意見を聞くよう努めている。が、不満や苦情は言いにくい事もあり、充分くみ取っているとは言えない。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 柔軟な対応ができるほどの職員が確保されているとはいえない。行事や全員での外出など特別なことがあるときは、職員配置を手厚くするよう心がけている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 基本的には各ユニットの職員を固定化し、馴染みの職員によるケアを心がけている。2ユニットで散歩や日光浴など一緒に行動することが多くありお互い顔見知りの関係を築いている。新しい職員は入居者ひとり一人に紹介し、互いに名前と顔が早く覚えられるようにしている。 (外部評価) 運営者は、異動や離職が最小限になるよう努力している。日頃からユニット同士が散歩や行事等を一緒に行うことが多いため、ユニット間の異動の場合は利用者へのダメージも少ない。新規採用の職員は、利用者に丁寧に紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 経験年数や理解度により研修の計画を立て、法人内で行われる研修や外部の機関で行われる研修に参加している。研修後は研修報告書の提出と研修報告会をしている。資格については順次取得できるようアドバイスをしている。 (外部評価) 運営者は、管理者や職員の育成には学習が重要と考えており、研修への参加を推進している。職員は出張扱いで外部研修に参加し、復命書の提出、他の職員への伝達講習を行っている。ホーム内では毎月の学習会のほか、単発的に救急処置や感染予防等の研修も実施している。同法人の合同学習会にも参加している。	※	質の高いケアができるよう全員が等しく研修を受けられるようにしたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) グループホーム協会が主催する相互研修に参加し、他事業所の取り組みを学んでいる。また、管理者交流会などでも意見交換し、事業所運営の参考にしている。 (外部評価) 他のグループホームと交流があり、相互訪問を行っている。また、グループホーム連絡協議会が行う相互研修に参加し、他ホームの職員と話し合う機会がある。こうした機会に学んだことを、サービスの質の向上に活かしている。	※	グループホーム協会が主催する相互研修では他ホームでの良いところを学ぶことができた。今後もそうした研修会には参加したい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 利用者から離れて休憩する場所や時間を設定したが、利用者と他の職員のことが心配で離れられない。10時や3時のおやつ時は利用者と一緒にお茶を楽しむようにしている。ストレス解消は各々職員任せである。	※	ストレスになるようなことを言葉に出して話すことができる職場にしたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は管理者を通じて事業所職員の状態を開き理解している。職員が向上心をもって働けるよう資格を取得した職員を表彰し、資格を活かすような職場配置も考えている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居の相談はほとんどの場合家族が来られ、利用者が家族と一緒に来られることは稀である。入居の順番が来れば、本人と面接し、思いを聞くよう努めている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用者の心身の状況、家族の苦労や現在受けているサービス、不安なことや困っていることなど家族が話したいことを全て受け止め聴くよう努力している。また、申込書を書くに当たっては施設見学などもしていただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、直ちに入居ができるわけではないので、現在の状況で考えられるサービス利用をお話している。また、他の事業所を紹介することもある。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人や家族にホームに来ていただき、他の入居者と一緒にお茶を楽しんでいただくなどリラックスした雰囲気作りに努めている。また、1. 2週間ホームで過ごし、2. 3日自宅へ帰ることを繰り返しながら慣れていただいている。 (外部評価) 利用者や家族にホームを見学してもらい、一緒にお茶を飲むなどしながら雰囲気に馴染めるよう配慮している。帰宅願望の強い利用者には「しばらくホームで過ごした後、2～3日自宅へ帰る」を繰り返しながら徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 共に生活する者同士として、お互いに頼られたり頼ったりする間柄である。一緒に掃除や調理、畑仕事をしながら昔取った杵柄を活かしていただいている。職員は、利用者を人生の先輩として敬愛し、お互い支え合って生活している。 (外部評価) 職員は、利用者と一緒に散歩、買い物、外食、行事での遠出、芋掘り、畑の収穫、料理の下ごしらえ等を楽しみながら行っている。利用者からはお茶のつぎ方、料理、戦争の話等を教わっている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族は利用者を一番理解している方である。職員は家族より情報をいただき、より深く利用者を理解しようと努めている。利用者を支えるのは家族と職員であるという同士の気持ちを持っている。	※	家族や職員が忌憚なく話し合える場を作りたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 行事に家族の参加をお願いしたり、自宅へ帰りたいとかお墓参りに行きたいと言われる利用者の家族には外出や外泊を勧め、よりよい関係が継続するよう努めている。ホームへ会いに来てくれるよう家族には常に働きかけている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族や親戚、元同僚であった方が面会に来てくだされば承諾を得て写真を撮らせていただき居室にはっている。が、自宅で生活していたときと同じような交流は現在どの方もできていない。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 一人ひとりの個性が強いので、お互いの人間関係が気まぐれにならないよう職員が見守り、こえかけし、調整役となっている。利用者同士の関係性を職員で話し合い、リビングの席を変えることがある。孤立することなく一緒に楽しめる関係が築けるよう支援している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 入院された方の所へ職員がしばしばお見舞いに出かけたり、自宅へ帰られた方には時々電話で様子をきくなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の何気ない言葉に耳を傾け、希望や思いをくみ取ろうと努力している。また行動から今の思いを理解することもできるので、希望にそえるよう職員間で連携をとっている。 (外部評価) 一人ひとりの思いや希望は利用者との会話、様子、行動等から把握するように努めている。家族からも積極的に情報提供してもらい、利用者のこだわり、暮らし方、趣味等を聞き、思いを知る参考にしている。	※	利用者一人ひとりの思いや意向を真摯な姿勢でくみ取り実現できるよう一層努力したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時、本人や家族、ケアマネージャーから生活歴やサービスの利用等の情報を得るようにしている。また、入居後も折りにふれ本人や家族にどのような生活をしていたのか聴くようにしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) その日その日の健康状態を知り、体調を考慮しながらできることをしていただいている。また心身の状態を把握し、入居者一人ひとりに合った生活ができるよう支援している。散歩に行く、廊下歩行をする、貼り絵をするなど体調に合わせて行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 日常生活の関わりの中で本人の思いを把握し、家族には来所時状態をお話しし、要望を聞くように心がけている。それらをもとに毎月のユニット会や朝、夕のミーティングで話し合い、介護計画をたてている。	※	家族の要望が充分把握でき、介護計画に活かされているか。家族の本音をくみ取る努力をしたい。
			(外部評価) 利用者ごとの個性や自立の視点を重視し、利用者や家族の思いを反映させるよう、職員が話し合っ介護計画を作成している。作成した介護計画は家族に説明し、理解を得るよう努めている。利用者の日々の支援や記録と介護計画が関連付けられていないため、十分活かされているとは言えない。	※	介護計画は、利用者がより良く暮らすために立てるものであるため、日々のケアや記録へ反映させることが望まれる。日々の記録をつける際に介護計画を常に確認できるようにして意識することで利用者のケアに活かす等の工夫を期待する。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 介護計画の期間はあるが、毎月のユニット会でケアの見直しをしている。緊急の場合は、その日に勤務している職員で話し合い、計画を変更している。申し送りノートにより全員に徹底するようにしている。ご家族には後日承諾を得ている。		
			(外部評価) 介護計画は月1回のユニット会で見直している。利用者や家族の状況等に変化が生じた場合は、その都度見直すことにしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日の生活状態は、個別の生活記録に記入。健康状態は熱計表に記入。気がついたことは申し送りノートに記入するなどして情報の共有に努めている。勤務に入ればまず、申し送りノートを確認するということが徹底されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 入退院の送迎や通院など本人や家族の状況に応じて柔軟な対応をしている。 (外部評価) 利用者の急な受診や外出、墓参り、冠婚葬祭への参列、家族のホーム内での宿泊等、多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 地域で安心して生活できるよう、必要なとき公の機関の援助を求めるようにしている。移動図書館の職員さんは希望を伝えれば次に用意してくださるなど協力的である。	※	利用者が安心して暮らせるよう民生委員やボランティアなどとの関係を深めていきたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 下肢筋力の低下を防ぎ、歩行が安定するよう訪問リハビリのサービスを利用している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 権利擁護等について包括支援センターと連携をとった事例はない。今後ホームのみで解決ができないことがあれば相談したい。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医とはいつでも何でも相談できる間柄である。往診が毎週あるので気になることは相談している。緊急の場合は、家族の承諾のもとに職員が受診助手し、電話で受診結果を報告している。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診時は家族の付き添いを基本としているが、都合により職員が同行することもある。急な受診の場合は家族に連絡を入れている。協力医療機関による往診を毎週行っている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 協力病院に精神科があり、相談や受診をするなどいい関係を築いている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員を配置しており入居者の健康管理や状態把握に努めている。また、協力病院の看護師は、入居者のことをよく理解しており、何でも相談できる間柄である。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院の準備から職員は関わり、入院中もお見舞いに行くなど利用者を励ましている。主治医やソーシャルワーカーと、入院中の状態や退院後の生活やリハビリなどについて相談や情報交換を行っている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 終末期をどのように見ていくか、全家族の意向を充分確認しているとは言えない。寝たきりになった場合、他の施設に申込みを家族にお願いするが、入所が決定するまでは当ホームで看させていただいている。 (外部評価) ホームの方針として重度化や終末期への対応は行わず、このことを早い時期から利用者及び家族に説明している。重度化や終末期の指針、医療連携マニュアルを作成し、全職員で共有している。	※	重度化したその時、どのようにするか本人、家族、主治医、管理者で話し合っているが早い時期から関係者全員で話し合う機会を持つことが必要。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 重度化した場合や終末期の利用者をどのように支援していくかについては学習不足である。職員間の連携や力量も不足している。状態の変化が著しいときはかかりつけ医に相談し、家族、かかりつけ医、ホーム責任者でどのように支援するかを話し合っている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 他事業所へ移られた場合は、日常生活の状態、家族との関係、ケアプラン等全ての情報を知らせ、ケアが継続できるよう連携をとっている。また自宅へ帰られた方に関しては、本人、家族、ケアマネ、サービス事業所、ホーム職員でサービス担当者会を開催し、家族も含め自宅での生活に早くなれるよう援助している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 高齢者介護の基本はその方の尊厳であることは、職員は知っている。ユニット会やミーティングの折りに、一人ひとりの入居者について、声掛けや対応の仕方について、話し合っている。また、守秘義務については折りに触れて注意している。 (外部評価) 食後の歯磨きやトイレ誘導等はさりげなく小声で行う等、利用者の誇りを大切にされた対応をしている。日々の記録類はフロアの書棚に置き、その他の書類は個人情報保護に留意して事務室や倉庫で保管している。	※	声掛けや対応、守秘義務については常に点検したい。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) その方の状態に合わせ、できる限り本人が意思決定できるような声掛けを心がけている。また職員は待つ姿勢、聴く姿勢を常に持っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 朝のバイタルサインチェックにより健康状態を把握し、みんなですること、個人ですることなど、おおよそ一日の予定を立てている。が、無理強いすることはない。起床の時間、散歩、日中居室で一人過ごすなど柔軟な対応をしている。 (外部評価) 早起きの方、遅くまで寝ていたい方と利用者によって起床時間が違うが、職員はそれぞれのペースに柔軟に対応している。居室で過ごす、テレビを見る、おしゃべりを楽しむなど、日中の過ごし方も様々であるが、一人ひとりの希望を大切に支援している。	※	職員の都合に合わせることなく、利用者の状況や気持ちを大切に支援をしたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 朝の更衣は、介助の必要な方には職員が好みを聞きながら介助している。男性が三人いるが、ひげそりは鏡の前に三人仲良く並んで各々自分で剃っている。散髪は家族様が行きつけの理容院へ連れて行って下さる方もいる。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好みを職員は理解しているので、職員が献立を立てている。食事の下ごしらえやお米研ぎ、テーブル拭き、食器洗い、お盆ふきなど能力に応じた力を発揮していただいている。職員も利用者も同じテーブルで食事を摂り、楽しい話題で盛り上がっている。誕生日会はリクエストメニューである (外部評価) 利用者の好みにも配慮しながら献立をたてている。時間がかかっても自力で食べる方をせかすことなく見守り、時には戸外で食べる等、食事が楽しめるよう支援している。利用者と職員と一緒に料理の下ごしらえをしたり、食卓を拭いたりしている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 基本的にはおやつも飲み物も同じ物であるが、好き嫌いがあるので考慮している。お酒、たばこをたしなむ方はいない。特別に食べたいもの、のみたい物があるときは一緒に買いに行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表を使用し、時間を見計らってトイレ誘導している。気持ちよく過ごせるように排便には特に気を配り、便の回数や状態の把握に努めている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 職員の勤務の都合で、入浴は午後から行っている。体調の良い方は毎日のように入浴している。本人の意思で入浴を拒否される場合は無理強いしない。入浴の順番は職員が、体の状態やリビングでの様子を見ながら決めている。 (外部評価) 毎日入浴する方もいれば、日によって入浴しない方もいるなど、一人ひとりの希望にそった入浴を支援している。仲の良い利用者が2人一緒に入浴することもある。フットケアにも力を入れており、利用者は毎朝、職員と話をしながら足浴を楽しんでいる。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 一日の流れの中で、活動する時間帯と休息する時間帯がある。体調や体の疲れ具合、希望により居室で横になっていたたり、ソファでテレビを観ながら休息していただいたりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴や趣味を知り、自分の得意分野で力を発揮していただいている。感謝の気持ちを伝えるとお互い様という言葉が利用者から返ってくる。いい人間関係が築けている。 (外部評価) ホーム周辺の散歩、スーパーでの買い物、外食・新年会・花見・夏祭り等の行事、芋掘り、針仕事、調理、掃除、犬の餌やり等、一人ひとりの希望や生活歴に応じた楽しみごとや役割を支援している。	※	できないだろうと決めつけるのではなく新しい力の発見に努めたい。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で財布を持たれている方はわずかである。パン屋さんが来たときや買い物に行ったときはお金を渡し、自分で支払いができるようにしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日は、体調を見ながら外へ出ている。外に椅子を出し、座って体操したり、散歩に出かけるなど日常的に行っている。またおやつやカレーライスを外で食べることもしばしばである。買い物やドライブは利用者の希望を取り入れている。梅、ツツジ、フジ、さくら、ボタンなどお花を観によく出かけている。 (外部評価) ホーム周辺の散歩や買い物、季節の花を見に行くなどの外出だけでなく、日常的にホームの外で日向ぼっこをしたり、体操をしたり、おやつや食事を楽しむ等、戸外で過ごす機会を多くもてるよう支援している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 本人が行きたいと思う遠くの場所は職員では対応できない。ご家族に本人の希望を伝え、生まれ故郷へ連れて行ってもらっている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は本人の希望によりかけている。またかかってきた電話は静かなところで話ができるよう配慮している。耳の遠い方には職員がつきそい、話が理解できるよう介助している。	※	日常的に字を書き年賀状くらいは書けるようにしたい。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 誰でも気軽に来られるような雰囲気作りに努めている。面会の時間帯は特にもうけず、買い物帰りや仕事帰りに立ち寄っていただけるよう配慮している。面会時は自室でゆっくりお話ししていただいている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員は研修や勉強会において学び、そのことをよく理解している。ミーティングや申し送りなどで身体拘束が行われていないかケアの点検をしている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員は常に9人の所在を確認している。外に出られる方には職員と一緒に出かけ安全に気を配っている。入居者の見守りを徹底し、玄関に鍵をかけ閉じこめるのではなく、誰もが自由に出入りできるようにしている。 (外部評価) 運営者及びすべての職員は鍵をかけないケアの意義を理解しており、居室や日中の玄関に鍵はかかっていない。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は多くの方が職員と共にリビングで一緒に過ごしている。居室で過ごされている方には時々訪室し声掛けをしている。夜間は1時間毎の巡回をし何があってもすぐに対応できるようにしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 刃物類は使用後は直ぐにかたづけている。包丁は調理台に出しっぱなしにするのではなく必ず収納している。はさみや針などを使うときは職員と一緒に作業をするなどして危険がないよう見守っている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 一人ひとりの状態を観察し、危険を予測し、それを防ぐ手だてを考え取り組んでいる。ごえん防止に口腔体操をする。転倒防止に環境を整える等取り組んでいる。またヒヤリハットを記録し、活用している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) マニュアルを作成し、手順に従って処置ができるよう訓練している。消防署に来ていただき応急処置の仕方やAEDの使い方など研修している。	※	何度も繰り返し訓練したい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 防火訓練をすることにより、入居者・職員に防火・防災の意識を喚起している。職員は通報・避難経路・消火器の使い方など訓練をしその方法を身につけている。また、運営推進会議や家族会などで防災について話し合いアドバイスをいただいたり、協力を求めている。 (外部評価) 職員の自主訓練を含め、2か月に1回程度は防災訓練を実施している。夜間を想定しての訓練も行い、避難経路や避難場所の確認、消火器具の使い方等の練習もしている。運営推進会議を通じて、災害時に地域の協力が得られるよう話し合っている。	※	ホーム内の危険箇所を点検したり、避難訓練をしたい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 入居時や状態が変わったときなど起こりうるリスクについてご家族に説明している。また、リスクはあるが行動制限をするのではなく見守りや環境を整えるなどして自由な暮らしをしていただけるよう努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝申し送り時に、睡眠状態、食事や水分量、排便、バイタルサインチェック等の確認を行い、状態の変化を見落とさないようにしている。変化に気がついたときは、勤務者で情報を共有し、看護師や管理者に報告し、場合によっては受診している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 入居者のお薬表をファイルし、職員はそれに目を通し、内容を把握している。薬が変われば、申し送りノートにより全員が確認し、利用者の様子観察に努めている。	※	薬が体に及ぼす影響や、薬の効用を知るために研修をしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食物繊維の多い食材を使った献立を立てている。また、水分の摂取量に気をつけたり、できるだけ散歩や廊下歩行、体操、レク等で体を動かすようにしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後歯磨きのこえかけを行い、一人ひとりの能力に応じて介助している。磨いた後は確認し、義歯は磨き直している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や栄養バランスについては、同じ会社の栄養士に相談し、献立表を時々チェックしてもらっている。食事量や水分量は毎回記録し、問題があればその都度話し合っている。 (外部評価) 食事の栄養バランスやカロリーは、法人の管理栄養士がチェックしている。摂取量や水分量は毎回記録している。一人ひとりの力量を大切に、できるだけ自力で食べられるよう支援している。離床の難しい利用者は、居室のベッドで食事介助するなど、利用者の状態に応じた柔軟な支援をしている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症の研修会に全員が出席し学んでいる。またマニュアルを作成し、予防のためにできることは行っている。職員が感染源にならないよう日頃から自己管理をしている。	※	うがいや手洗い、清掃・消毒は徹底したい。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 新鮮な食材を使うよう、使う日に買いに行ったり、発注したりしている。まな板や布巾は毎晩殺菌している。冷蔵庫は古い食材をおかないよう片付け週1回の掃除をするようにしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関は常に開放し、気軽に出入りできるようにしている。また花壇には草花を植えたり、畑には野菜を作るなどして、どこにでもある家と同じような感じにしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間は清潔に、整理整頓を心がけている。花を生けたり、壁に写真や入居者と職員が作成した季節感のある貼り絵を貼るなど楽しめるようにしている。廊下にはソファをおき休憩や会話ができるような居心地の良い場所としている。 (外部評価) ホーム内は木材を多く使用しており、明るくゆったりして温かい雰囲気がある。居間や食堂には見やすい時計、日めくり、家庭的な食卓、ソファ、テレビ等を配し、季節の花、利用者の作品や写真を飾り、居心地よく過ごせる空間となっている。浴室やトイレ等は清潔感があり、気になる匂いもない。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファやテーブルの配置に気を配り、利用者が気兼ねなく過ごせる空間づくりをしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れたものや愛着のある物を家族と相談しながら持ってきていただいている。家族の写真やカレンダー、ぬいぐるみお針箱や携帯ラジオなどお気に入りのものを身の回りへ置き利用者が安心できるよう配慮している。 (外部評価) 居室は窓が大きめで明るく、ゆったりしている。室内には利用者の使い慣れたテーブルやイス、衣装ケース、シルバーカー、テレビ、時計、仏壇、観葉植物等が持ち込まれ、居心地よく過ごせる部屋となっている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 居室やリビングの温度は常に意識し、こまめに冷暖房の温度調節をしている。また換気や湿度にも気を配り、加湿器や空気清浄機を使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 床は段差がない。また、手すりや洗面台の高さなど利用者の使い勝手が良いようにしている。利用者が自分で行きたいところへ移動できるよう、身体の状態に合わせシルバーカーを使用している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) トイレの場所や自分の椅子が分からない利用者の為、それぞれ場所の表示や、椅子の座布団を変えるなど混乱しないような工夫をしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 花壇や畑を建物の周りに作り、花を手折り、野菜を収穫できるようにしている。また、天気の良い日はテーブルや椅子を出し、日光浴をしたり、カレーを外で食べるなど屋外での活動を楽しんでいる。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない	意思表示ができる利用者の思いは分かるが、そうでない利用者の思いは充分つかんでいとは言えない。職員の推察は利用者の意にかなっていないかもしれない。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	午前、午後のおやつの時間や食事は、利用者と同じテーブルで話しながらゆっくりした時間を過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	利用者のペースに合わせ、自室で休んだり、テレビを観たり、ラジオを聞いたりしている。起床時間や臥床時間はそれぞれ異なっている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	職員が話をしたり、声掛けをすることにより安心できるのか落ち着いてこられる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	日々の生活の中では散歩くらいである。利用者が望む買い物やドライブ、遠くへの外出は叶えられない。事前の計画と人員配置が必要である。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	法人グループに病院があり、またその病院が近くにあるために安心感がある。体調に合わせて往診や受診をしている。また訪問リハビリを利用するなど健康面について不安はない。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	利用者のことを理解し、一人ひとりに合った対応をしている。全員で外出するよう決めていても、車に酔うからと中止する方もいらっしゃるが、急な変更でも対応している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) ① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	入居時や面会に来られた時に話を聴き、ある程度は信頼関係ができていく。職員からの報告が多く、家族は本音を話せていないかもしれない。と時々思うことがある。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	入居当初は家族、親戚、近所の方などが訪問してくださるが、年月が経つにしたがって、来訪者が少なくなってくる。近所の方は用事があれば来てくださる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域行事の情報が増えた。また参加も促してくださる。地域の方々には毎回3, 4名出席してくださるので多くの方にホームを知っていただけるようになった。
98	職員は、生き生きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) ③ 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ストレスが多く、仕事を楽しんでいるとは言えない。生き生きと働けるよう心がけているが無理なところがある。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	穏やかに生活できているときは満足しているのだろうと思う。が、帰宅願望が強いので、満足されていないのかなと思うこともある。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	職員は面会時に話し信頼関係はある程度できていると思っているが、本当にそうなのか疑問に思う。不満などは言葉にされないが、言いたくても言えない雰囲気を作っているのではないだろうか？

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・利用者様の不安を取り除き、穏やかに過ごしていただけるよう努めています。
- ・その人らしく生き生きと生活できるよう支援しています。
- ・下肢筋力の低下を予防するために日光浴や散歩、棒体操やレクリエーションを毎日しています。
- ・玄関やリビングの壁面に利用者様と職員が作成した作品を毎月貼っています。作品の作成はリハビリにもなりますし、できあがれば達成感も味わえます。
- ・外出の機会を多く持っています。初詣、外食、紅葉狩り、お花観賞（梅、桜、ふじ、ツツジ、菊など）観光農園へ果物狩り（イチゴ、ブドウ、柿等）に出かけています。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム まなべ

(ユニット名)

2階フロアー

記入者(管理者)

氏 名

中原 千加子

評価完了日

平成 20 年 12 月 25 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 入居者一人ひとりが自立した生活が営めるよう支援すること。一人ひとりが穏やかに生き生きとその人らしく暮らせるよう支援すること。地域の方々と交流を図り、地域社会に開かれた暮らしとなるようつとめること。等を理念として掲げている。		
			(外部評価) 同系列のホーム共通の、地域の中でその人らしく暮らすことを支えるという理念がある。この運営理念を、さらにユニットごとに具体化した月間目標として掲げ、支援に繋げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 玄関やリビングなど職員の目に触れるところに理念を貼っている。名札の裏にも書かれており、見直すことが容易にできる。理念を具体化した目標をユニット会で話し合い、共有し、実現に向けての取り組みをしている。目標は、入居者様に書いていただき、リビングに掲示している。	※	今後も目標を設定、実行し、理念の具体化に努めたい。
			(外部評価) 理念を具体化した月間目標をホーム内に掲げてユニット会で話し合うとともに、名札の裏に理念を印刷して常に確認する等、職員は理念の共有化を図っている。月間目標の「ゆったり、のんびり、おだやかに」を、利用者ごとの起床時間への対応、朝の足浴時の会話、口腔体操でのかかわり等で実践している。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議や家族会において話しあい理解を求めている。また入居時にも運営理念を話し、理解を求めている。理念を話すだけでなく、普段から地域の方々と言葉を交わすことにより、自然に理念は理解されるものと思われる。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩や買い物の途中で挨拶を交わしたり、気軽に話をしたりしている。また、野菜を持ってきてくださったり、畑を手伝って下さったりと日常的におつきあいし、いい関係ができています。	※	隣近所といい関係が続くよう利用者と職員もきちんと挨拶したい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の方々には運営推進会議やホームの行事に参加していただき交流を深めている。また、お祭りや、老人会と小学生が一緒に行う注連縄づくりにも参加させていただいている。公民館が行うのみの市にも職員が協力するなどしている。	※	職員がゆとりを持って地域の行事に参加できるようにしたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) ホームの入居者様のことのみで、地域の高齢者の役に立つようなことは取り組めていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 意義は充分理解し、改善に向けて話し合い、できることから取り組んでいる。		
			(外部評価) 運営者、管理者、職員はそれぞれの立場から評価の意義を理解した上で全職員が自己評価に取り組んでおり、日々のケアのふりかえりになったと感じている。前回の評価を受けて、理念を目標化したり、他ホームとの交流や相互訪問に努めるなど、改善に熱心に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では利用者様の様子や提供したサービスを報告し、話し合いをしている。その場で出された意見はミーティングなどで報告し、改善すべきは改善に取り組んでいる。 (外部評価) 会議は2か月に1回開催され、ホームは行事、利用者の状況、外部評価、課題等を報告し、質問や意見を出してもらっている。また、地域の情報を得たり、健康管理や福祉の講話を行ったり、同系列の事業所を見学する等、柔軟な会議の運営を行っている。会議での意見や情報をサービス向上に活かしている。	※	運営推進会議の持ち方を考えたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議には参加していただいているが、それ以外にはほとんど行き来することはない。運営推進会議の中で、包括の職員さんに感染症や健康管理などについてお話をお願いしているが、それらは日々のケアに活かされている。また、行政が主催するサービス向上連絡会に出席し、学んだことは職員に報告している。 (外部評価) 市担当者、介護相談員とグループホームで構成されたサービス向上連絡会があり、この会での意見や研修内容をサービスの質の向上に活かしている。市担当者や地域包括支援センターとも日常的に行き来する機会があり、相談したり介護情報を得たりしている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し、ある程度は理解しているが、充分知っているとは言い切れない。それを活用したことはない。	※	学ぶ機会があれば積極的に参加したい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加しユニット会などで話し合い、意識を高めている。また、職員同士で気がつけば注意しあい、虐待防止に努めている。虐待は見られない。	※	より一層の意識の徹底を図りたい。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時には十分な説明をし、不安や疑問点があれば丁寧に説明し理解していただいている。また、入居前にも自由にホーム見学をしていただき、説明し納得していただいている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 毎月介護相談員さんが来所し、利用者の意見や苦情を聴いて下さっている。職員も、利用者の日常生活の中から不満や要望をくみ取り課題としている。また、玄関には意見箱をもうけている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 毎月、日常生活報告書を家族へ送り、その月の様子をお知らせしている。また、ホーム便りも一緒に送り生活の様子を見ていただいている。お金をお預かりしている方の金銭出納簿は家族の来所時に報告している。		
			(外部評価) 利用者の暮らしぶりや健康状態は、日常生活報告書とホーム便り等で家族に毎月報告している。ホームで金銭を預かる場合は個別の金銭出納帳を作り、家族の来訪時に確認してもらっている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や家族会で意見や苦情を聴くようにしている。また、面会時に状況を報告し、意見を求めている。聞いたことは申し送りノートで全員が確認し、ミーティングで話し合い意見が反映されるようにしている。	※	家族の本音を聞き出すのは難しいが、できる限り家族と何でも話せる関係を築いていきたい。
			(外部評価) 意見や苦情等は、来訪時や家族会、運営推進会議、意見箱等で把握し、ミーティングで話し合って運営に反映させているが、家族の本音や率直な意見が十分得られているとは言い難い。相談苦情窓口は内部と外部に分けて文書に明記し、家族にも説明している。	※	家族と職員が顔の見える関係の中で、率直な意見等を言い難い状況が考えられる。家族会などで職員が席をはずして家族同士で話し合う時間を設け、出された意見や苦情を家族代表から伝えてもらう等、家族の本音を聞きとれるような工夫を期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は毎日の申し送りや毎月のユニット会で話し合う機会を設け、意見交換をしている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 柔軟な対応ができるだけの職員数の確保ができていない。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) ユニットの職員を固定化し、馴染みの職員によるケアを心がけている。2ユニットで一緒に行動したり、お互いに行き来することがあるので利用者、職員共に顔見知りの関係が築けている。職員の異動は少ないが短期間で離職される方がいる。 (外部評価) 運営者は、異動や離職が最小限になるよう努力している。日頃からユニット同士が散歩や行事等を一緒に行うことが多いため、ユニット間の異動の場合は利用者へのダメージも少ない。新規採用の職員は、利用者に丁寧に紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修計画をたて、法人内の研修や外部機関の研修会に参加している。学んだ後は研修報告書の提出と報告会を行っている。資格については取得できるよう配慮している。 (外部評価) 運営者は、管理者や職員の育成には学習が重要と考えており、研修への参加を推進している。職員は出張扱いで外部研修に参加し、復命書の提出、他の職員への伝達講習を行っている。ホーム内では毎月の学習会のほか、単発的に救急処置や感染予防等の研修も実施している。同法人の合同学習会にも参加している。	※	質の高いケアが提供できるよう全員が研修を受けられるようにしたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 研修会や相互研修に参加し、他のグループホームの良いところを学んだり、悩みを話し合いサービス向上に努めている。また管理者も管理者交流会で意見交換し、事業運営の参考になっている。 (外部評価) 他のグループホームと交流があり、相互訪問を行っている。また、グループホーム連絡協議会が行う相互研修に参加し、他ホームの職員と話し合う機会がある。こうした機会に学んだことを、サービスの質の向上に活かしている。	※	積極的に他事業書と交流を図りたい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 利用者から離れて、昼食時に30分の休憩を取るようになっているが、取っていても落ち着かない。10時と3時のおやつ時に利用者と一緒にお茶を飲んでいる。1時間の休憩は取りにくく細切れである。	※	ストレスをためないで何でも話せる職場を作りたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員の立場から言うと、日々の業務に追われているのが現状で気持ちにもゆとりがなく、向上心をなかなか持てない。運営者は管理者を通じて職員の状態を理解している。資格を取得した職員は表彰し、活かすような配置を考えている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 面接時、利用者の状態や困っていることなどを聴き不安を取り除くよう丁寧に説明している。入居時は、担当者を決め、できる限りの情報を収集し、本人のことを理解しようとしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用者の心身の状況や家族の苦勞、困っていることなどを真摯に受け止め相談に乗っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、困っていることや望んでいることなどを伺い、受けられるサービスについて提案させていただいている。他の事業所を紹介することもある。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居前に見学や体験をしていただいている。病院から直接来られる方は、入居前に看護師と一緒に見学に来られ、1時間程度他の入居者様とお茶をするなど楽しい時間を過ごしていただけるよう配慮している。 (外部評価) 利用者や家族にホームを見学してもらい、一緒にお茶を飲むなどしながら雰囲気に馴染めるよう配慮している。帰宅願望の強い利用者には「しばらくホームで過ごした後、2～3日自宅へ帰る」を繰り返しながら徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 本人の得意なもの、昔の仕事の内容など会話し、理解し、それらを日常生活に取り入れるようにしている。また個人を尊重し、調理の仕方や遊びなどを教えていただきながら、良い関係を築いている。 (外部評価) 職員は、利用者と一緒に散歩、買い物、外食、行事での遠出、芋掘り、畑の収穫、料理の下ごしらえ等を楽しみながら行っている。利用者からはお茶のつぎ方、料理、戦争の話等を教わっている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族は利用者の一歩の理解者である。利用者の状態が良いときも悪いときも連絡を取り合い、何でも話せる間柄である。	※	家族と職員が忌憚なく話し合えるようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 面会や外出、外泊の機会を設け、お互いが疎遠にならないよう支援している。またホームの行事にも参加を働きかけている。電話のやりとりはいつでもできる。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 築いてきた人間関係はホームに入居されたことでとぎれることが多い。お互いが高齢者の場合一人でホームを訪問することができず関係が切れてしまう。また行きたいところは家族に告げることではできるが、職員では対応できない。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 一人ひとりの性格を把握し、助け合いや支え合いができるよう声掛けしている。また一緒にレクや散歩、調理などを行うことにより利用者同士の関わりを深めている。利用者同士が口論になった時はどちらからも話を聞き解決に努めている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 入院で退居された方の所へは時々お見舞いに行っている。また、在宅になられた方が同法人のショートステイなどを利用される時には会いに行くなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 個々のこだわりや生活スタイルを尊重し、無理強いしないように心がけている。 (外部評価) 一人ひとりの思いや希望は利用者との会話、様子、行動等から把握するように努めている。家族からも積極的に情報提供してもらい、利用者のこだわり、暮らし方、趣味等を聞き、思いを知る参考にしている。	※	一人ひとりの思いを大切にしたい個別ケアをしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時、本人や家族、看護師などから情報を得るようにしている。入居後も分からないことがあれば家族に相談したりケアマネージャーに尋ねたりしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) バイタルサインチェックを行い、異常の早期発見に努め、観察を怠らず、一人ひとりにあった生活ができるよう支援している。個性にあった生活ができるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 入居時、本人・家族にはできるだけどのような生活を望んでいるか聞くが具体的な意見はなかなか出にくい。日常生活の中で本人の思いを推察したり、家族の言葉の端々から思いを聞き取るように努め、ユニット会で話し合い介護計画を立てている。	※	本人・家族の要望を充分くみ取った介護計画になっているか。本音をくみ取る努力をしたい。
			(外部評価) 利用者ごとの個性や自立の視点を重視し、利用者や家族の思いを反映させるよう、職員が話し合っ介護計画を作成している。作成した介護計画は家族に説明し、理解を得るよう努めている。利用者の日々の支援や記録と介護計画が関連付けられていないため、十分活かされているとは言えない。	※	介護計画は、利用者がより良く暮らすために立てるものであるため、日々のケアや記録へ反映させることが望まれる。日々の記録をつける際に介護計画を常に確認できるようにして意識することで利用者のケアに活かす等の工夫を期待する。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 毎月のユニット会で見直し、話し合いを行っている。体調の変化があればその都度見直しをしている。緊急に変更した場合は、後日家族に説明し同意を得ている。		
			(外部評価) 介護計画は月1回のユニット会で見直している。利用者や家族の状況等に変化が生じた場合は、その都度見直すことにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日の生活状態は個別の生活記録に記入。健康状態は熱計表に記入。情報共有の為に申し送りノートを活用している。勤務に入れば必ず目を通すことが義務づけられている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 入退院時の送迎や病院受診等家族の状況に合わせ柔軟に対応をしている。遠くにいる家族の希望で通院は柔軟に対応している。 (外部評価) 利用者の急な受診や外出、墓参り、冠婚葬祭への参列、家族のホーム内での宿泊等、多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 地域で安心して生活できるよう、必要なときに公の機関の援助を求めるようにしている。	※	地域の方々と関係を深めたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 他のサービスは活用していない。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 権利擁護等について包括支援センターと連携をとった事例はない。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居時に家族の希望でかかりつけ医を決めている。かかりつけ医とは何でも相談できる間柄である。緊急の場合は、かかりつけ医と相談し、家族の承諾のもとに受診している。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診時は家族の付き添いを基本としているが、都合により職員が同行することもある。急な受診の場合は家族に連絡を入れている。協力医療機関による往診を毎週行っている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 協力病院に精神科があるので相談したり受診したりしている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員を配置し、入居者の健康管理や状態把握に努めている。また協力医院の看護師は、入居者の健康状態をよく把握しており、何でも相談できる間柄である。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院の段階から職員は関わり、入院中もお見舞いに行くなど利用者を励ましている。主治医やソーシャルワーカーと入院中の状態や退院後の生活やリハビリについて話し合いの場を持っている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 終末期をどこで誰がどのように看っていくのか家族との話し合いは十分になされていない。漠然とした思いがあるのみ。重度化した場合は特養の申込をしていただき、入居が決まるまでホームで看させていただいている。 (外部評価) ホームの方針として重度化や終末期への対応は行わず、このことを早い時期から利用者及び家族に説明している。重度化や終末期の指針、医療連携マニュアルを作成し、全職員で共有している。	※	話し合いの必要性は十分に感じているのでその機会を持ちたい。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 重度化した場合や終末期の利用者をどのように支援していくかについては十分に検討していない。職員間の連携や力量も不足している。状態の変化が著しいときは、家族、かかりつけ医、ホーム責任者で家族の希望を聞きどのように支援するか話し合っている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 他事業所へ移られた場合は、家族の了解のもとに全ての情報を提供し、ケアが継続できるよう連携をとっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 一人ひとりの人格を尊重する声掛けや、言葉遣いに気をつけている。声掛けや対応についてはユニット会などで話し合っている。守秘義務については折りに触れて注意を喚起している。 (外部評価) 食後の歯磨きやトイレ誘導等はさりげなく小声で行う等、利用者の誇りを大切にされた対応をしている。日々の記録類はフロアの書棚に置き、その他の書類は個人情報保護に留意して事務室や倉庫で保管している。	※	声掛けや対応、守秘義務については常に反省する心を持ちたい。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの状態にあわせ、できる限り本人の思いや希望が表現できるような声掛けをするよう心がけている。本人が納得できない場合はなぜなのか傾聴するようにしている。待つ姿勢を持つようにしているが、時として忘れてしまう。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日課としている決まり事がいくつかあるが、それが嫌な場合は無理強いすることはない。自室で過ごしたい方、遅くまで寝ていたい方、テレビを観たい方などそれぞれ一日の過ごし方はまちまちである。 (外部評価) 早起きの方、遅くまで寝ていたい方と利用者によって起床時間が違うが、職員はそれぞれのペースに柔軟に対応している。居室で過ごす、テレビを見る、おしゃべりを楽しむなど、日中の過ごし方も様々であるが、一人ひとりの希望を大切に支援している。	※	職員の都合に合わせるのではなく、利用者の状況や気持ちを大切に支援をしたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 洋服はそれぞれ自分で選んで着ている。外出やお祭り、家族も参加した行事の時などは、いろいろな服を試着し、にぎやかにおしゃべりしながら洋服を決めている。髪は家族の希望により職員がカットしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食べることは大好きでおいしい物が食べたいと言われる。要望を聞きながら献立を立てている。料理の下ごしらえ、テーブル拭き、お盆拭き、後片付けなど職員と一緒にしている。また、食事は利用者、職員一緒ににぎやかに食べ、楽しい雰囲気である。誕生日会はリクエストメニューである。 (外部評価) 利用者の好みにも配慮しながら献立をたてている。時間がかかっても自力で食べる方をせかすことなく見守り、時には戸外で食べる等、食事が楽しめるよう支援している。利用者と職員と一緒に料理の下ごしらえをしたり、食卓を拭いたりしている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 普段は同じ飲み物を飲んでいる。ただしコーヒーや牛乳が飲めない方には違った飲み物を準備する等の配慮はしている。体調に合わせ、本人の希望で野菜ジュースやリポビタンを飲まれる方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表を使い、一人ひとりの排泄パターンをできる限り把握し、トイレ誘導を心がけている。排便については便の回数や量、形状等に気をつけている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴が大好きという利用者が多く、ほぼ毎日入浴している。入居者同士二人で一緒に仲良く入っている方もいる。職員の勤務の都合で、利用者の希望の時間に入浴はできないが楽しみにしている。順番は不平、不満が出るのでくじ引きとしている。 (外部評価) 毎日入浴する方もいれば、日によって入浴しない方もいるなど、一人ひとりの希望にそった入浴を支援している。仲の良い利用者が2人一緒に入浴することもある。フットケアにも力を入れており、利用者は毎朝、職員と話をしながら足浴を楽しんでいる。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 個々人の日常生活リズムや体調に合わせた休息や睡眠をとっていただいている。一人ひとり自分のペースで過ごしていただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの趣味や特技、能力を把握し、それらを活かし、張りのある生活を送れるよう支援している。包丁をつかうのが得意な人、お針仕事が達者な人、畳むのが几帳面な人、場を盛り上げるのが得意な人など様々であり、いろいろな場面で、持てる能力を発揮していただいている。 (外部評価) ホーム周辺の散歩、スーパーでの買い物、外食・新年会・花見・夏祭り等の行事、芋掘り、針仕事、調理、掃除、犬の餌やり等、一人ひとりの希望や生活歴に応じた楽しみごとや役割を支援している。	※	できないだろうと決めつけるのではなく、新しい力の発見に努めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を自分で管理している利用者は一人だけである。家族から預かり買い物の時など自分で払っていただくことはある。パン屋さんが毎週来るので、希望者にはお金を渡し、買ってもらっている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天候や体調に合わせ、外に出ている。日光浴や散歩など日常的に行っている。外に椅子やテーブルを出し、体操したり、食事をするなど楽しんでいる。買い物やドライブは利用者の希望を取り入れ、フジやツツジ、梅、桜、紅葉など見物に出かけている。 (外部評価) ホーム周辺の散歩や買い物、季節の花を見に行くなどの外出だけでなく、日常的にホームの外で日向ぼっこをしたり、体操をしたり、おやつや食事を楽しむ等、戸外で過ごす機会を多くもてるよう支援している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族と共に外出される利用者は数人である。遠方から面会に来た娘さんと一緒に外食したり温泉に行かれる方もいる。帰館時刻が遅くなっても一年に数回のことなので配慮している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があれば電話を掛けることは自由である。家人に年賀状を出している。	※	年賀状だけでなく普段からお便りが書けるよう支援したい。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 誰でも気軽に来られるよう玄関はいつも開いている。面会の時間帯も特に規制はない。面会に来られた方とは自室でゆっくり過ごしてもらっている。また、他の利用者様と自由に交流される方もいる。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 全職員が研修し、身体拘束をしないケアを実施している。朝、夕の申し送りやユニット会などで身体拘束が行われてないかケアの点検をしている。	※	身体拘束はしていないが、常に意識していきたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) いつも職員同士で声をかけあい、見守りを徹底することで鍵を掛けないケアに取り組んでいる。ドアは常に外に向かって開かれている。 (外部評価) 運営者及びすべての職員は鍵をかけないケアの意義を理解しており、居室や日中の玄関に鍵はかかっている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中はリビングで職員と一緒に過ごされる方が多く、危険のない限り、さりげなく見守りを行っている。居室で過している方には時々訪室し声掛けをしている。夜間は1時間毎の巡回をし安全を確認している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) はさみや包丁など危険のない限り、見守りのもとに使っていただいている。裁縫道具は職員が管理し、使用時見守っている。使った針の本数は確認している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 一人ひとりの状態を把握し、危険を予測し、それを防ぐ手だてを考え取り組んでいる。ヒヤリハットを活用し、再発防止に努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) マニュアルを作成し、緊急時の対応について研修、訓練をしている。消防署による救急講習を受け、技術を学んでいる。	※	繰り返し訓練したい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 防火訓練を定期的に行い、防火・防災の意識を喚起している。職員は訓練により通報や避難経路、初期消火の方法を身につけている。また、家族会や運営推進会議において話し合い、協力を求めている。 (外部評価) 職員の自主訓練を含め、2か月に1回程度は防災訓練を実施している。夜間を想定しての訓練も行い、避難経路や避難場所の確認、消火器具の使い方等の練習もしている。運営推進会議を通じて、災害時に地域の協力が得られるよう話し合っている。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入居時や状態が変化したとき起こりうるリスクについて説明し、理解していただいている。危険防止のために行動制限をすることなく、見守りや事故防止の環境を整えるなどして自由な暮らしを楽しんでいただいている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝申し送り時に、睡眠状態、食事や水分摂取量、排泄、バイタルサインチェックなどの確認を行い、状態の変化を見落とさないようにしている。異常があれば勤務者で情報を共有し、看護師や管理者に報告し、必要であれば受診している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) お薬表をファイルし、誰がどのようなお薬を飲んでいるか職員は把握している。お薬の変更があれば申し送りノートに記入し、全員が把握し、状態観察に努めている。	※	薬についての研修をしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 便秘予防のために食物繊維の多い食材を使った献立を立てている。また、運動量や水分摂取量にも気を配り便秘の予防に努めている。それでも排便がない場合はセンナ茶や薬に頼ることもある。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、歯磨きの声掛けを行い、一人ひとりの能力に応じて介助している。夜間は義歯をはずしポリドントにつけている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 献立は職員が立てているが、同じ法人の管理栄養士に時々チェックしてもらっている。食事量や水分量は毎回記録し、問題があれば話し合うようにしている。 (外部評価) 食事の栄養バランスやカロリーは、法人の管理栄養士がチェックしている。摂取量や水分量は毎回記録している。一人ひとりの力量を大切に、できるだけ自力で食べられるよう支援している。離床の難しい利用者は、居室のベッドで食事介助するなど、利用者の状態に応じた柔軟な支援をしている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 職員は感染症の研修会に出席し予防や対応について学んでいる。またマニュアルを作成し、予防のためにできることは行っている。職員は感染源にならないよう自己管理に努めている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) まな板や布巾等の殺菌はこまめに行っている。食材は新鮮な物を買に行ったり、発注したりしている。冷蔵庫は古い食材はおかないよう、また中の掃除や片づけを週1回行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関は常に開放し、気軽に出入りができるようにしている。また花壇には花を植え、畑には野菜を作るなど家庭的な雰囲気にしてある。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングの壁には季節に応じた絵やちぎり絵を貼り、廊下や玄関には花を生け、季節感を取り入れている。カーテンの開閉に関してはこまめに注意し、まぶしくないよう気をつけている。 (外部評価) ホーム内は木材を多く使用しており、明るくゆったりして温かい雰囲気がある。居間や食堂には見やすい時計、日めくり、家庭的な食卓、ソファ、テレビ等を配し、季節の花、利用者の作品や写真を飾り、居心地よく過ごせる空間となっている。浴室やトイレ等は清潔感があり、気になる匂いもない。	※	共用の空間は整理整頓をいつも心がけたい。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにソファを置き、くつろげるようにしている。また、畳の間もあり、正座したり、寝ころんで過ごすこともできる。丸テーブルを囲んで会話など自由にできる。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れたものや愛着のあるものなど本人・家族と相談しながら持ってきていただいている。各々が個性豊かにものを配置し、絵画や写真なども貼り居心地よくしている。お仏壇を持ち込まれている方もいる。 (外部評価) 居室は窓が大きめで明るく、ゆったりしている。室内には利用者の使い慣れたテーブルやイス、衣装ケース、シルバーカー、テレビ、時計、仏壇、観葉植物等が持ち込まれ、居心地よく過ごせる部屋となっている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) ロビーや廊下、リビング、居室は随時窓を開け換気に気をつけている。温度調節はこまめに行い、適温を心がけている。冬場は乾燥するので加湿器を使っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 床は段差がなく、必要な箇所に手すりも設置され、安全に移動できるよう配慮されている。	※	利用者にとって危険な所はないか点検を怠らない要したい。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) トイレや浴室が分かるよう字や絵で場所を示している。またそれらを見やすい位置に貼っている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 庭には季節の花や野菜を栽培し、花を摘んだり、野菜を収穫したりして季節感を味わえるようにしている。また、天気の良い日には椅子とテーブルを出し、お茶を飲んだり食事をするなど楽しんでいる。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者の願いや意向を理解しているつもりではあるが、全てできているとは言い難い。自分から気持ちを表現できる方には意向に添った支援ができるが、そうでない方には職員の推察した支援なので正しいかどうかは分からない。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	食事、おやつは同じテーブルで一緒にゆったりと話をしながら過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一人ひとりのペースを大切にしている。自室で横になったり、リビングで自分の好きなテレビ番組を観たり、グループで話したり、新聞を読んだり好きなように過ごしている。寝たり起きたりする時間も各人各様である。何をするにも無理強いしないようにしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎日、レクリエーションや運動など行っているが、笑い声や笑顔が見られ生き生きとしている。お手伝いをして下さったとき感謝の言葉をかけると「何でもできることはするよ」と嬉しそうな言葉が返ってくる。自分で何でもできている方にはさりげなく支援すると満足そうな表情が見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	天気の良い日には、利用者の状態に合わせ、コースを設定して散歩に出かけている。利用者の行きたい所、例えば買い物やドライブ、自宅、お墓参りなどは希望があっても充分叶えてあげられない。計画を立て、職員の配置をしなければできない。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	健康管理には全職員が気を配り、異常を見逃さないようにしている。法人グループに病院があるので常に連携をとっている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎日の生活の中で日課としていることがある。日課としているが拒否される場合は無理強いすることはない。できる限り希望に添うようにしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (自己評価) 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会に来てくださる家族とは充分話し、信頼関係はある程度できている。また、急を要することは電話で相談し、意思疎通をとるようにしている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	入居当初は知人や隣人が訪問して下さるが、年月が経てば馴染みの方々もほとんど訪ねて来られなくなる。地域の方々は用事があれば訪問して下さる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議には地域の方々が毎回3～4名ほど出席して下さるのでホームのことが少しずつ理解していただけるようになった。文化祭や注連縄づくりに誘いをうけるようになった。
98	職員は、活き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	業務に追われ余裕がなく、ストレスが溜まりやすい環境である。また利用者の対応に疲れることもある。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者は思ったことを感情のままに表現される。職員は思いを傾聴し、叶えられるよう努力している。自宅へ帰りたいという願い以外は叶えようと努力している。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	職員は何でも話し、信頼関係はほぼできていると思っているが、家族は果たしてそうなのか本当のところは分からない。家族からの不満が聞かれないので、本当に本音で話して下さっているのかどうか分からない。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・利用者様と良い関係を作るため、それぞれの性格を理解し尊重し無理強いしないよう努めています。
- ・家庭的な雰囲気作りに心がけ、全員が参加できる行事を多くし、退屈しない、楽しい毎日を送っていただけるよう努力しています。
- ・玄関やリビングの壁面に利用者様と職員と一緒に1ヶ月かけて作った作品を貼っています。毎月季節感あふれる作品です。
- ・自立した生活を送るには、自分の足で歩ける